

会員だより

フランス旅行記 Ⅱ

とっておきのお城を紹介
今回は南仏の中でもフランスが誇るべきとっておきのお城を紹介します。

ヴェルサイユ宮殿
ルイ 14 世フランスの全盛期に建てられ、その後幾度となく増改築。

ルイ 16 世とマリー・アントワネット妃がフランス革命で囚われの身となり、ルイ王朝の王宮の役割は終わった。

今回の旅行でマリー・アントワネット妃が使った午睡の間、浴室、奥の間、秘密通路を通じて、学術員と警備員付きで特別見学した。

鏡の間の見事な
シャンデリア



近世ではこの下でドイツ帝国創立式典や第一次大戦後の講和条約調印式が行われた。



シュノンソー城

国王アンリ二世(1559)が愛妾に贈った城。

美しく知的な彼女は建築・造園など事業に秀でた能力を発揮し、この城も後ろを流れるロワヌ川の支流を利用して見事に増改築させた。しかし国王死去後、正妻が愛妾を追い出し、自分好みに改装した。この正妻の死去後、約 50 年、やはり女性王族の居城となったが、徐々にパリ方面に移動した。その後フランス革命で貴族が社会より追放された。

第一次大戦中には病院に、またレジスタンスの活動の場にもなりました。女性の城と権力の争いは日本も外国も同じようです。 S・U

蝉のぬけがら

今夏の蝉の初鳴きは、気象庁が関西の梅雨明け宣言した、まさにその朝でした。たった一匹と思われましたが、日に日にその数を増して 1 週間後には「余計に暑く感じる！」と人間勝手なグチになりました。

更に数日後、朝刊を取りに行くと、目の高さにあるプランターのサフィニアの茎に蝉のぬけがらを発見！ブロック塀をよじ登り更にプランターを這い上がりこの茎にたどり着いて脱皮したのかと思えば、姿ない蝉に「よくがんばったね！」と、どこかで鳴いているその蝉に声をかけました。



抜けがらは花と共に風に揺れています。 K・N

ふるさと農園

8月の農園 畑の花と収穫は楽しい！
今年(2012年)の夏はゲリラ豪雨に見まわられています。8月の農園は、きれいな花と実の収穫の時期です。



農園で一番楽しいのは収穫ですね。明日は収穫しようと思って行ったら、アライグマに荒らされているのを見ると耐え難い！！でも、「頭の黒いネズミ」よりかわいげがあります。「トウモロコシ」の収穫に行ったら、全部の「トウモロコシ」が「カナブン」で真っ黒です。子供の頃、カナブンを捕まえて遊んだお返しかもしれませんね。 S・O

味WAY



花オクラのおひたし

「トロロアオイ」は、オクラに似た花を咲かせることから「花オクラ」とも呼ばれます。花の根元の部分の切り口は「オクラ」の形をしています。オクラは花が咲き終わった後の、柔らかい実を食べます。花オクラは花を食べますが、実は硬いので食べません。朝、花が咲いたら、太陽が照りつける前に花の部分収穫します。

ちゃんとオクラのネバネバした感じもあります。沸騰したお湯に花のガクの部分を取り除いて、サッと湯を通してザルにとる。

「そうめんつゆ」をかけて食べると美味しいです。又、ガクの部分をとり花びらを生のまま「わさび醤油」をつけて食べるとだんだんネバネバが出てきてとてもおいしいです。

また、サラダに入れてもきれいです。慢性腎炎や慢性腎不全患者全般に効用があると言われています。特に早期の糖尿病性腎症の改善に優れているとのことです。 T・O

葵子の折り紙

クレマチス (和名"てっせん")

6 枚の花弁が咲き誇る様はくるくる回る風車のように綺麗和服の模様にもなりそうな花しかし蔓(つる)は鉄のように強靱なところから鉄の線と名前が付けられたのでしょうか E・H

